新庄小

センス・オブ・ワンダー（感じる心）の樹の紹介（～１月）

～　美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目をみはる感性を育むために　～

さんぽをしているとき、手がつめたくなった。でも、お父さんとお母さんと手をつないだら、あたたかくなった。
（１年男子）

げんかんのしょくぶつをリビングにうつしたら、すごく元気になった。しょくぶつも、人間と同じなのかな。（２年女子）

ライトがあたった雪はゆっくりおちてくるのに、ライトがきえるとはやくおちてくる。ふしぎだな。
（２年女子）

おふろの中にあしをしずめたら、赤ちゃんみたいに小さくみえたよ。ふしぎだな。
（１年男子）

白い雪が、夕方は夕日でオレンジ色にかがやいていた。つぎの日は、むらさき色になった。光のプレゼントなのかな。
（２年女子）

雪は一つ一つは小さいのに、あっという間に大きな雪のかたまりになる。ふしぎだな。
（２年男子）

雪の上にねっころがって空をみたら、くものうごくスピードがはやくて、びっくりした。
（１年男子）

手ぶくろにおちた雪はとけないけれども、手のひらにおちた雪はすぐにとける。ふしぎだな。
（１年女子）

花や葉を支えているのは枝、枝を支えているのは幹、幹を支えているのは根。花や葉や枝や幹は見えますが、根は見えません。見えない根を太く丈夫に育てることで、美しい花が育ちます。子どもの感性（感じる心）を育てることも、木の根を太く丈夫に育てることと似ているように思うのです。

新庄市立新庄小学校
The sense of wonder だより
第７号　　Ｒ4. 1. 17